

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200941		
法人名	株式会社 桜梅桃里		
事業所名	グループホーム パラソル 倉敷中庄		
所在地	倉敷中庄2371-1		
自己評価作成日	平成29年2月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成29年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅や馴染みの場所へ外出支援をし、家族や馴染みの人との関わりをもてるように努めています。敷地内に畑があり、四季折々の野菜を育てています。昔の経験を活かし生き生きと畑作業をされ、職員も色々勉強させていただいております。収穫した野菜は、入居者様と一緒に調理方法を考え、料理して楽しいひと時となっています。又、出身が県外の方には郷土料理を教えていただき食卓に並ぶと、郷土の思い出に花が咲きます。それぞれのできることを活かし役割を持っていただいたり、楽しみごとを増やすよう努力しています。表情豊かに暮らしていただけるよう、お一人おひとりに合わせた作業・運動・屋外活動を行っております。ボランティアの方によるハンドケア・フットケア、音楽体操・運動会等、地域の皆様との交流を密に図らせていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の基本理念の下で、入居者が地域で暮らし続けるための基盤作りに全職員で取り組んでいます。思いやりの心と笑顔を大切にされた支援を心掛け、その人らしい楽しい日々が過ごせる様に取り組んでいます。内外研修の機会を増やし持てる力を発揮する事でより一層、生き生きとしたグループホームになる様子が期待できる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤時には常に意識できるよう玄関に会社の理念を掲げ、フロアにも各ユニットの理念を掲示し確認できるようにしている。	法人の理念の下、各ユニットが介護理念を掲げ実践に繋がっています。	ミーティングの時など機会を捉え、日々介護理念の共有と実践に繋げる様努め、ステップアップしていかれる事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加し、散歩やドライブ等には地域の方へ声掛けを行って交流に努めている。また地域の方が施設の方へ花や野菜の苗を持ってきてくださることもある。	開所から3年を迎えようとしており、徐々に地域とのつながりも出来てきています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談にこられた地域の方や家族の方の思いを聞かせていただき、思いに寄り添えるような助言をできるかぎりさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催し、そこで得た情報・助言・感想などを議事録で職員に周知しサービス向上に活かしている。	行政、他事業所、家族、民生委員などの参加により開催しており情報、意見交換、状況報告などにより相互理解を深めながらサービスの向上に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者の方へ、不明な点・判断できないこと等は相談をさせていただき、必要であれば訪問または、来訪して頂き課題解決に努めている。	介護保険課、福祉課、などその都度必要な情報や相談事など連絡を取りながら連携を深めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議・カンファレンス時には、何が拘束なのかをスタッフ間で共有し拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、離設につながらないよう散歩・ドライブ等で気分転換を図っている。	その人らしい生活を大切にしながら身体拘束にならない様気を付けています。	なにげない声掛け、動作の中にも拘束につながる行為があります。禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解する事をこれからも続けていかれる様期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体で入浴時・排泄時などに注意を払い、異常が発見された場合は原因を究明している。結果については職員全員に報告し、指導を行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている入居者の方がいるため、実際に入居者の方と関わりを持ちながら制度を学んでいる。又、ユニット会議・カンファレンス時等にスタッフ間で情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時契約の時には必ず、わかりやすい言葉で十分な説明を納得するまで行い、不安や疑問点をなくすよう努めている。契約後でもわからないと言われた場合は随時説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見・要望については、申し送りノートに記載し共通理解を図り運営に反映している。運営推進会議で家族の方に自由に意見を述べて頂いており、又玄関にご意見BOXを設置している。	入居者からは日々の様子から要望など聞き取る様努めています。家族からの要望などを運営推進会議で話し合いながら運営に反映しています。	なかなか聞く機会の少ない家族の要望が聞ける様全職員で知恵を出し合い、より多くの要望の中からステップアップに繋げていかれる事を期待しています。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議時等に職員の現状改善・意見を出し合い、問題解決・改善を行い反映させている。会議に参加できない時等は、職員各自のレターボックスを活用している。	会議などでそれぞれ日々の支援の中での気づき、改善点など話し合い運営に反映する様努めています。設備などの希望では難しい面もあり、対応等工夫しながら全職員で取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断の実施、要再検診の職員には受診を促したり、保健師による健康指導の実施を行っている。契約更新時・年2回の自己評価実施時に話し合える場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりに必要と思われる研修等に参加してもらっている。さまざまな研修の案内を事務所に掲示し参加を促している。年2回の自己評価を実施し自分のケアについて振り返る機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で知り合った同業者と情報交換を行っており、サービスの質の向上に反映されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族の方に事前の見学をして頂いたり、必要時には本人宅を訪問し必ず直接会う機会を作り、心身の状態や思いを聞き、状態の把握に努めると共に不安を取り除く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が相談しやすいような雰囲気作りを心がけ、些細な事でも相談して頂けるような関係づくりに努めている。話の内容から何に困っているのか、状況把握に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時の聞き取りは必ず行い、状況把握に努め必要と思われる環境を整える工夫をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えをスタッフ間で共有し、本人の得意なこと・趣味等積極的に行って頂けるように支援し、得意料理などをスタッフが教えてもらうような場面も設定している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時には必ず本人の様子を報告するとともに、入居される前の様子等情報交換を密に行っている。一緒に行事等参加して頂けるよう計画している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に限らず、知人来所時にはソファや自室にてゆっくりと過ごして頂けるよう努めている。可能な方は自宅に帰り家族と過ごしたり、行きつけの美容院に行かれる方もいる。又、ご家族が犬を連れてきて一緒に散歩に出かけることもある。	入居前からの友人、知人の来訪時は継続的な交流が出来る様これまでの関係の把握に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話や言動には十分注意を払い、トラブルを未然に防ぐよう努めている。必要な時には、スタッフが介入して気分転換を図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、家族の方に会った時は気軽に挨拶している。また時折訪問して下さることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット会議やカンファレンス、日々の会話などから把握するよう努めている。ゆっくり会話できる時間を増やせるよう工夫している。	これまでの趣味、趣向を取り入れ一日の過ごし方を大切にしながら本人の暮らしの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りや以前利用されていたサービスの情報提供をもとに、生活歴の把握に努めている。情報をスタッフ全員が共有し、出来る限り今までの暮らし方を変えないように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフの観察力を高め、入居者一人ひとりの残存機能を見極め、出来ることはして頂き現状維持ができるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間の意見交換や情報の共有をし、統一したケアが図れるようにしている。定期的なモニタリングを行い、介護計画に反映させている。	カンファレンスやモニタリングで情報収集し、家族の思いなど参考に介護計画の作成に取り組んでいます。	業務をこなす為の介護計画にならない様、これからも入居者の視点に立って現況を把握し、必要な支援を盛り込んだ介護計画の作成に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の書き方はスタッフ間で差がある。観察力の向上とそれを簡潔にわかりやすく文章にする能力を養う必要がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、病院受診や買い物支援等家族・職員・看護師・医師との連携を密に図り、柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議時に得た情報により、地域行事への参加ができている。又、地域のボランティアの方の活用によりリフレッシュして頂けるよう心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関・その他の専門機関との連携を図り、個人に合った適切な医療を受けられるように支援し、急な受診が必要な場合や希望があればスタッフの日程調整を行い受診に付き添っている。	月1回の全体往診と2週間に1回の往診で一人ひとりの健康管理と医療支援で体調などの情報共有に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフの中に看護師がおり、緊急時には24時間連絡できる体制を整えている。介護職は日々のケアを通じて状態の変化や異常を発見できる力を養い、看護職から適切なアドバイスをもらうよう連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いに行くことにより、入院先の医師や看護師から状態を把握している。いただいた情報はスタッフ間で共有し、状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応に係る指針について話し合っているが、その都度状況に応じて関係者と話し合い方針を共有して、支援に取り組んでいる。	重度化と看取りについて家族に説明し理解を得ながら今後もさらに終末期のあり方について、全職員で方針の共有と支援について理解を深めていく様取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護経験の長いスタッフが多く、看護師も数名在籍しているため、勉強会時・実践に役立っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を想定し年2回避難訓練を実施している。又、運営推進会議において地域の方への協力要請を行っている。	定期的に避難訓練を行っています。1階と2階に別れた2ユニットで2階からの避難の大変さを実感しています。	昨今の類焼はじめ天災害に備えた避難訓練の必要性を全職員が意識し、実践の他にシュミレーションなども取り入れ、尚一層危機感を持って取り組まれる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりが何を求めているかを考えながら対応するよう心がけている。	特に排泄時の声掛けなどプライバシーを損ねない対応に気をつけています。常に尊敬の念を持って支援する様心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現や意見の言いやすい環境や関係づくりに努めている。意思表示ができない人であっても表情を観察しながら、ご本人の希望を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調・心理の変化に目を配り、柔軟な体制で支援している。日常よりコミュニケーションを密に取り、自発的な希望を発しやすい関係づくりに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には、可能な限りご本人に衣類を選んで頂くようにしている。定期的な訪問理美容を取り入れ、その際毛染め・パーマ等ご本人の意思を尊重している。本人希望で馴染みの美容室に家族の方と行かれることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には準備・片付け等職員と一緒に参加して頂いている。施設の畑でできた旬の野菜を使い、献立や調理方法を一緒に考え楽しい時間を過ごしている。	声掛けして出来る人には下ごしらえなどの準備を手伝ってもらいながら楽しく食事が出来る様支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の食事摂取量・水分量を記入し、職員が共有することにより、不足時等その都度状況に合わせ必要量が確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの実施の有無をチェック表に記入することで実施し忘れを防ぐようにしている。毎食後義歯洗浄うがいの声掛け・介助を行い、毎日就寝前にはポリデントも使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表により個々の排泄パターンを把握し、タイミングをみて現状で必要な排泄支援を行い、失禁の減少を図りトイレでの排泄を促している。	それぞれのその人に合った排泄の支援に努め出来る限り自立した排泄の継続と維持に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・食物繊維の多い食べ物を提供している。日々、体操の実施・散歩・外出等により運動の実施に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り個々のニーズに沿うよう計画を立てている。又、季節にはゆず湯などでリラックスして頂いている。	その人に添った入浴の方法で限られたスペースを工夫しながら気持ちよく入浴してもらえる様心掛け、リラックスした入浴支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息に関しては個々の意思を尊重している。夜間帯、眠れない方には職員と一緒に過ごしたり、温かい飲み物を提供したり安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬情をファイルし、いつでもすぐ確認できるようにし、理解を深めるよう努めている。薬が変更になった場合には、状態を記録に残し医師へ情報提供し治療に活かしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のコミュニケーションの中から、その方の趣味や得意とすること等の把握に努め、個々の力を発揮できるような支援を心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ等により気分転換を図っている。四季折々の外出・外食の機会を計画している。ご家族来所時には、一緒に出掛けられる方もある。	敷地内の畑の野菜や花の世話・草取りなどで気分転換や外気浴を図っています。又、年間行事計画による外出・外食の機会を設け、外出支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のできる入居者様は、ご家族の協力も含め所持していただいている。外出時等に買い物を楽しまれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも利用できるように支援している。希望により居室に携帯電話を置かれている方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の壁飾りや置物等を工夫している。照明は、ライトコントロールにて時々に応じた明るさ・自然光を取り入れる工夫を実施している。又、ホールからすぐ見える場所に季節の花や野菜を植えて、季節感を味わって頂いている。	昔懐かしいポスターを飾ったり、調度品を置いて落ち着いた雰囲気作りがされています。又、四季の作品などを飾り季節感を採り入れる様工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の配置替えや利用者間の良い関係が保てるような席次等の工夫や配慮に努めている。横になって過ごせる畳の空間や、1人でゆっくりくつろげるソファも置いてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用していた家具・本・写真等を持参して頂き、ご本人の馴染みのあるものを配置することにより居心地のよい環境作りに努めている。ご位牌や写真を居室に飾っている方もいる。	ひとりで過ごす居室は本人の思いや安全など配慮し思い思いに自立した時が過ごせる様支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には表示を行い、状態に合わせて声かけや誘導を行い混乱を防ぐよう工夫している。居室に目印となるものをつけている方もある。		